

## 共同研究 瀬戸内海の歴史民俗

### 二神島調査と研究成果の とりまとめについての経過報告

田上 繁



写真1 写真提供者に写真集『島の写真帖』1をお届け（2015年7月）

#### 2015年度の活動

昨2014年度に続き、2015年度も最終的な研究成果をまとめる年度と位置づけているため、大規模な現地調査は実施しなかった。ただ、刊行物の謹呈や論文集や報告書に収載する論文の執筆に必要な補充調査のため二神島や関連地域に赴いた。活動内容を歴史班・造船班と民俗班に分けて記述すると、次のようになる。

#### 【歴史班・造船班】

時系列的に書き上げると、まず、2015年5月31日付の写真集『島の写真帖』1の刊行に伴い、7月3日から5日まで二神島を訪れ、写真提供者へ写真集を届けるとともに、同行した造船班によ



写真2 造船班の調査（2016年1月）

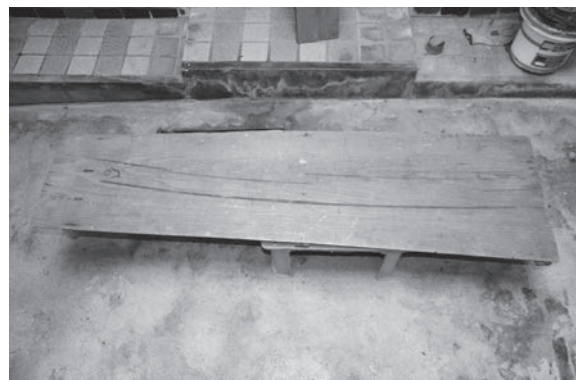


写真3 船の建造の際に用いる板図（2016年1月）

る造船所跡の構造調査や船大工からの聞き書き調査などを行った。11月7日・8日には、松山市で開催された「二神系譜研究会」の創立15周年記念行事へ参加している。

さらに、2016年1月22日から24日までの日程で、歴史班と造船班が同行して補充調査を実施した。2月25日には2冊目の写真集『島の写真帖』2が、また、3月1日には史料集『二神司朗家文書中世・系図編』がそれぞれ完成した。3月30日・31日には、これら2冊の刊行物を届けるため二神島を訪問したが、その際、地元の豊田渉氏や二神系譜研究会の方々の案内で二神の状況を確認した。これより先、9月27日から29日まで、造船班が松山市で調査を行った。



写真4 補充調査 (2016年1月)



写真5 二神島の風景 (2016年1月)



写真6 『島の写真帖 二神島写真資料集』 vol.1 (2015年5月)



写真7 『島の写真帖 二神島写真資料集』 vol.2 (2016年2月)



写真8 『二神司朗家文書 中世文書・系図編』 (2016年3月)

---

## 二神島の葬墓制

佐野 賢治

---

本研究所ではかつて網野善彦を中心に、代々二神島の領主であった二神本家の墓石群（二神島本浦の字西島に所在）の考古学的発掘調査を行った<sup>(1)</sup>。

その後2008年に新たに始まった共同研究「瀬戸内海の歴史民俗」においては、島に2か所ある村の墓地の調査にも着手し、民俗班のテーマとしては、葬墓制に関わる聞き取り、墓石調査に力点を置くことにした。

二神島の墓地を訪れると“イエ”と呼ばれる墓上施設がまず目につく。少し見聞きしただけでもかつてはこのようなイエを土葬上に設け、13回忌ぐらいになると改葬したという。また、島内では山から転げ落ちてきた五輪塔の一部を屋敷神として祀ったり、石垣に埋め込んだりしている。  
城ノ後墓地の家墓からは家名の多いことがうかがえ、両墓制的な性格を持つか否か、中世墓から近世、近現代への墓制の連続性と非連続性、集落の形成と家意識の在り方などの課題が想定された。そのため、民俗伝承全般を対象とせず葬墓制に焦点をあてること、島内の墓石の悉皆調査が必要との意見が出されるなかで新たに墓石班が組織され2011年から5年にかけてその第一段階として城ノ後墓地の悉皆調査が行われた。

写真1 墓石の現状（2012年3月）

以上の調査を踏まえ現在、『二神島-葬送と墓の民俗-資料編』と題する報告書を刊行予定である。内容的には、島の暮らしの概要を生業・信仰・年中行事・人の一生などの民俗誌で示し、島の葬送・墓制を理解するための背景を扱う。墓資料としては共同墓地の一つ城ノ後地区じょうのしろの墓石、およそ700基の悉皆調査のデータ化である。遺跡としての墓地、遺物としての墓石、遺文としての墓標、それぞれの性格を墓石の配置・位置、墓石の形式・法量・石材、文字資料としての戒名などを記載し、現時点での正確な基礎資料とする。また、葬送と墓に関する聞き書きの節を設け、島の人々の葬送や墓に対する生の声をそのまま文字化する。この悉皆調査の統計や数量から客観的に何を読み取り、また民俗誌の生の資料も合わせて二神島の葬墓制をどのように読み解くのかは今後の研究に委ねられる。また、別に刊行される考察編は、現場からの問題提起としての性格を持つ。いずれにせよ、洪沢敬三が強調したように、学界に正確な資料を提供することであり、墓石班の調査者は炎天と寒風、蚊の襲来、傾斜地から滑り落ちる格闘も含め文字通り踏ん張った。この報告書が斯界の研究者に利・活用され、葬墓制研究の新たな展開の基礎資料になればと思う。

## 注

- (1) 田代郁夫・河野真知郎「愛媛県二神島・二神家墓地の調査報告」(第59回常民文化研究会口頭報告1998・3・27)、および田代郁夫・若松美智子「二神家墓地調査中間報告」(『歴史と民俗18』2002)。

写真2 “イエ”と四十九院(2012年3月)

写真3 墓石調査(2012年9月)

写真4 二神島の港(2012年9月)

写真5 墓石調査(2013年3月)